

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

- 1 調査目的
- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 2 調査日時
- 令和5年4月18日（火） ※英語「話すこと」調査（オンライン方式）は4月18日（火）～5月26日（金）のうち、あらかじめ指定された実施日
- 3 対象学年
- 小学校第6学年、中学校第3学年
- 4 調査事項
- （1）児童・生徒：教科調査〔国語、算数・数学、英語（中学校のみ）〕、質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
- （2）学 校：質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

5 教科調査の結果と分析

（1）全体の傾向（平成31年度からの推移） 【平均正答率＝％】 ※（都との差）は市教育委員会で追記した数値（令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し中止）

		小学校 第6学年				中学校 第3学年			
		H31	R3	R4	R5	H31	R3	R4	R5
国語	武蔵野市	75（+10）	75（+7）	73（+4）	76（+7）	80（+6）	73（+6）	76（+6）	80（+8）
	東京都	65	68	69	69	74	67	70	72
	全国（公立）	63.8	64.7	65.6	67.2	72.8	64.6	69.0	69.8
数 算 数	武蔵野市	78（+8）	81（+7）	73（+6）	75（+8）	70（+8）	68（+8）	65（+11）	66（+12）
	東京都	70	74	67	67	62	60	54	54
	全国（公立）	66.6	70.2	63.2	62.5	59.8	57.2	51.4	51
英語	武蔵野市					67（+8）			62（+10）
	東京都					59			52
	全国（公立）					56			45.6

- 全教科の全問題で全国、東京都の平均正答率を超えた。
- また、本市の第1四分位（データを小さい順に並べたとき、はじめてから数えて25％の位置にある数）と全国の平均正答数を比べると、小学校国語9.0問（全国9.4問）、算数10.0問（全国10.0問）、中学校国語11問（全国10.5問）、数学7.0問（全国7.6問）、英語7.0問（7.7問）となり、市全体では知識・技能の確実な習得等が図られている。
- 一方で、全国の平均正答数以下の児童・生徒は一定数おり、**指導の個別化（その子に応じた指導）や学習の個性化（一人一人の興味・関心に応じた学習）といった「個別最適な学び」の着実な推進が必要**である。
- 観点別に着目すると、「思考・判断・表現」の問題については、小学校は国語8.4、算数13.8ポイント、中学校は国語11.4、数学17.2、英語15.2ポイントほど全国の平均正答率よりも高い結果となった。
- また、記述式の問題については、小学校は国語7.3、算数16.1ポイント、中学校は国語11.9、数学17.2、英語13.2ポイント全国の平均正答率より高い結果となった。
- 昨年度に引き続き、**各校の思考を深める問いの工夫や、説明・話し合い等の言語活動の充実が成果として表れている。**

（2）今後の授業改善につなげたい問題の正答率と指導の方向性 ※（ ）内は無回答率 参考資料＝国立教育政策研究所ＨＰ「令和5年度全国学力・学習状況調査報告書」

【小学校国語（問題の概要）】

川村さんは選んだカード（注：問題では、学校での米作り等の記録カードが①～⑤まで示されている）を基に、学校の米作りの問題点とその解決方法を書こうとしています。あなたが川村さんならどのように書きますか。次の条件に合わせて書きましょう。

<条件>

○学校の米作りの問題点については、川村さんの文章のグラフ（農家の田んぼと学校の雑草の量）とカード④のそれぞれから分かることを書くこと

○問題点の解決方法については、カード⑤をもとにして書くこと

○60字以上、100字以内にまとめて書くこと

【出題の趣旨】

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

武蔵野市

東京都（公立）

全国（公立）

35.4（3.3）

28.9（8.2）

26.7（7.1）

【指導の方向性】

○情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだり、表を用いてまとめたりするなど、**情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるようにすると効果的**となる。

○情報を整理する際に**ICT機器を活用すると、編集したり視覚的に捉えたりしやすくなる。**

○文章を記述する場面では、友達と助言し合いながら、自分の文章を何度も見直したり、書き直したりできるように指導することが大切となる。

○**児童の学習の状況に応じて、教師が図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することが効果的**となる。

特に、複数の文章を比べることで、図表やグラフなどを用いると、自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるようにすることが効果的となる。

【中学校数学（問題の概要）】

一花さんと啓太さんは、黄葉日（イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日）の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにし、箱ひげ図を作成しました。この図から一花さんは「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張しています。そう主張できる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

【出題の趣旨】

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

武蔵野市

東京都（公立）

全国（公立）

49.3（9.5）

36.5（19.9）

33.6（22.8）

【指導の方向性】

○**日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ**、データを収集して分析し、それを基に分布の傾向を読み取り、批判的に考察し、判断するとともに、その理由について説明し合う場面を設定することが考えられる。

○その際、**自分が判断した事柄とその根拠について、数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切**となる。

○箱ひげ図の箱で示された区間には、全データのうち中央値を中心とする約半数のデータが含まれていることから、箱の位置と事象とを関連付けて捉え、統計的に問題解決することができるようにすることが大切である。

○インターネットを活用してデータ収集する場合は、誰がどのように調べた結果かなど、**信頼性についても批判的に考察する必要がある。**

【中学校英語（問題の概要）】

英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

【出題の趣旨】

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

武蔵野市

東京都（公立）

全国（公立）

37.5（13.5）

25.2（24.4）

19.5（29.3）

【指導の方向性】

○読んだことを基に自分の考えとその理由を書く際に、**読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが重要**となる。

○指導に当たっては、以下のような言語活動に取り組むことが考えられる。

・教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などを、スピーチや、新聞やホームページなどへの投稿文の形式で書く活動

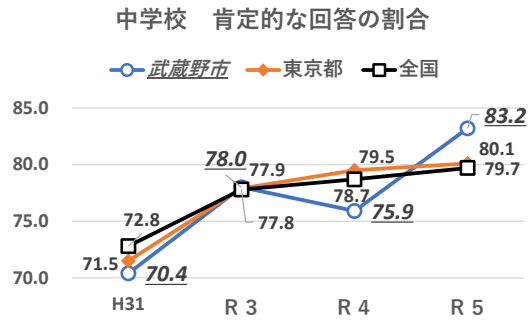
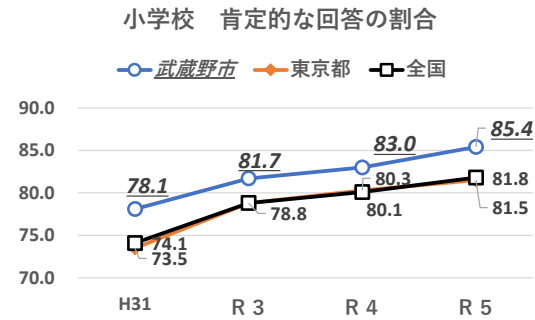
・他教科等でも扱われる自然環境、世界情勢、科学技術、平和などの話題に関して読んだ内容を踏まえて、感想、賛否やその理由などを書く活動

○内容や表現を改善していく上で、**書いた英文に対して教師がフィードバックを与えたり、他の生徒からコメントをもらったりすることも大切**である。

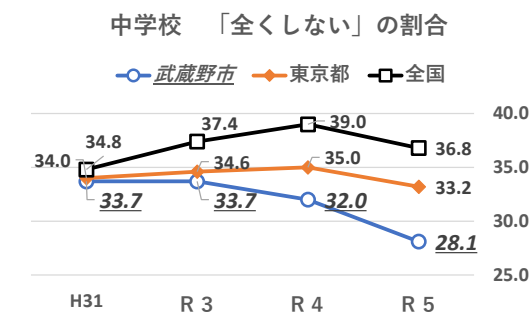
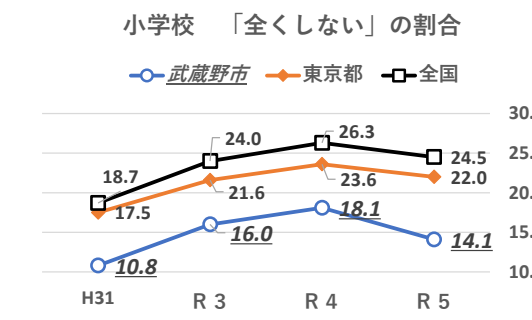
6 児童・生徒質問紙結果の経年変化を基にした第三期学校教育計画の主要な取組の効果検証【回答＝％】

(1) 言語能力の育成

①学級の児童・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) ※R5から電子書籍も含む



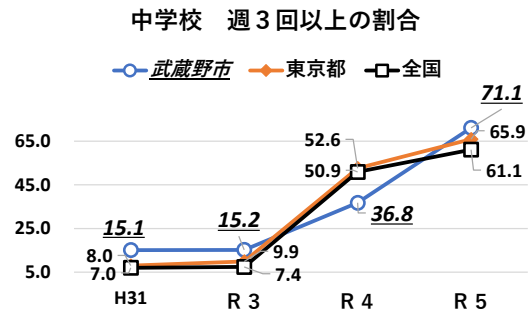
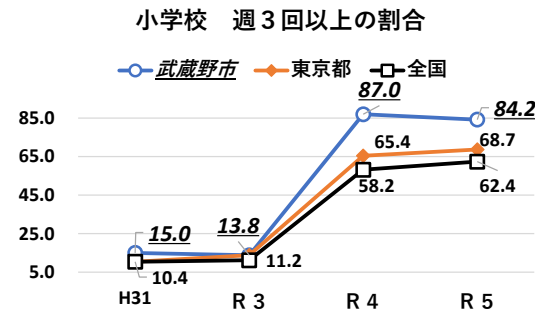
○話し合い活動に関連して、「授業の中で自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表した」も70%を超えた。教科調査の記述式の問題の「無回答率」も全国や東京都の平均より低く、各校の言語活動の充実が数値として表れていると言える。

○「1日に読書を全くしない」の回答について小学校は近年上昇傾向だったが、今年度は低下した。中学校は昨年に引き続き、低下している。なお、「30分以上の読書」に取り組んでいるのは小・中学校共に45%を超えた。

○電子書籍が含まれた影響も考察する必要があるが、各校において、拡充した学校司書との連携を一層深め、児童・生徒の読書活動を促進していく。

(2) 情報活用能力の育成

①5年生（中学1、2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
※令和3年以前は「〇年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」



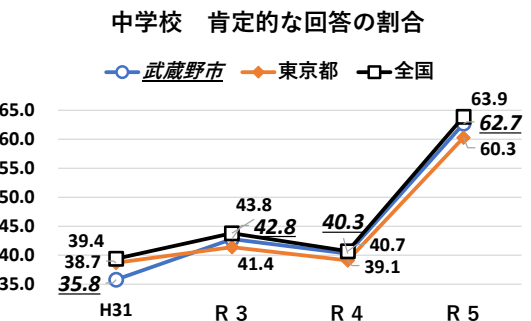
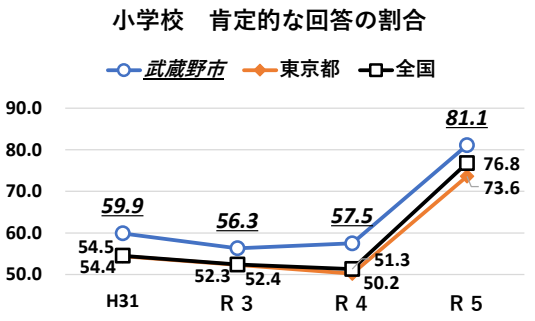
○「ほぼ毎日」「週3回以上」を合わせた回答が小学校は84.2%、中学校は71.1%となり、各校での学習者用PCの使用が促進している。しかし、中学校の「ほぼ毎日」は18.8%で全国や東京都より低くなっている。

○「学習でPC・タブレットなどを使うのは勉強の役に立つか」との肯定的な回答が小学校は84%、中学校は90%を超え、児童・生徒は効果を実感しており、更なる活用を推進する。

○「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットを勉強のために使っているか」に対して、「30分以上」の合計は、小・中学校共に45%を超え、学習者用PCが日常的な学習道具になりつつある。

(3) 市民性の育成

①地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



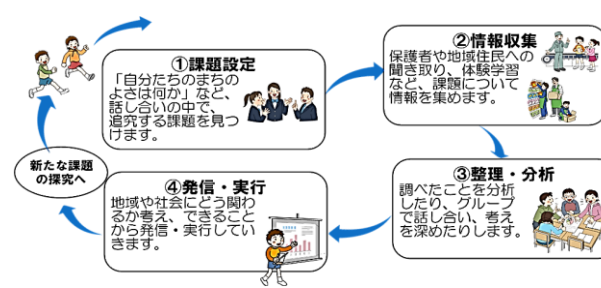
○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の肯定的な回答が小・中学校共に昨年度までより大幅に上昇している。全国、東京都も同様の上がり方をしており、複合的な要素が考えられる。

○総合的な学習の時間について課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現といった学習過程を意識している児童・生徒が小・中学校ともに80%を超えた。

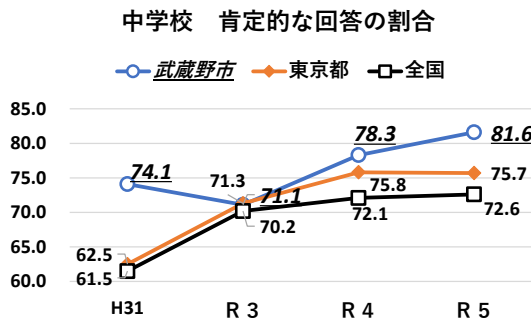
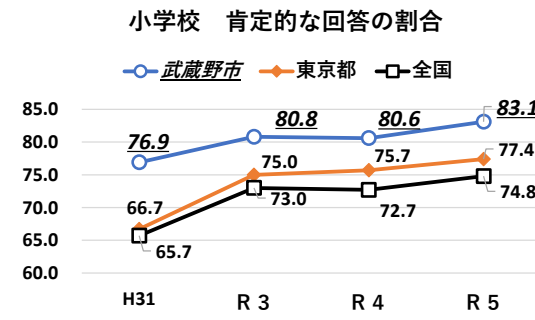
○各校の武蔵野市民科の取組をはじめ、5年生のセカンドスクールや2年生の職場体験学習について、単に体験で終えることなく「自然との共生」や「まちづくり」「働くこととSDGsとの関連」など、児童・生徒が自らテーマを設定したり、課題を発見して、追究していく学習過程が定着してきていると言える。

○探究的な学習では、こうした問題解決や追究していく学習活動を発展的に繰り返すことが重要である。年間1回以上取り組んでいる武蔵野市民科を軸に、総合的な学習の時間の年間計画や上下学年との連続性や発展性について一層の工夫を進める。

【武蔵野市民科の学習イメージ図】



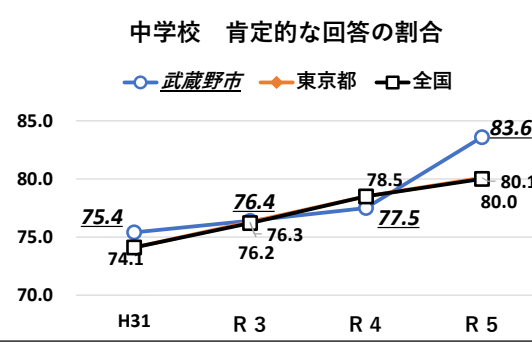
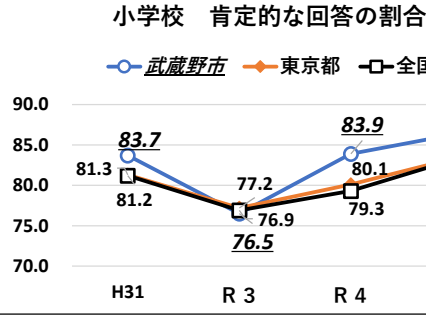
②総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



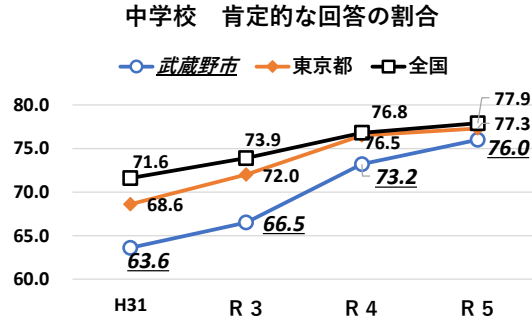
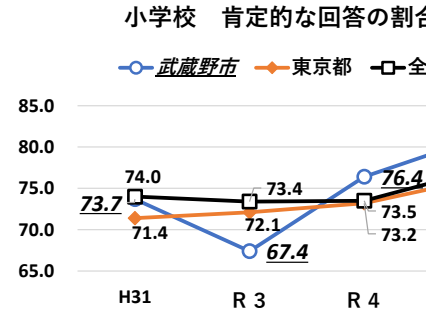
(4) 多様な人々が共に生きる社会の担い手としての資質・能力の育成

(5) 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実について

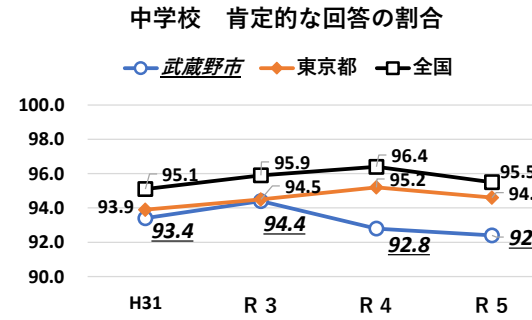
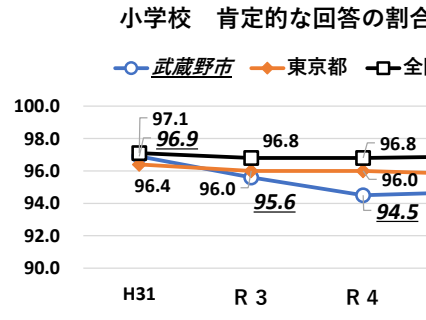
①自分には、よいところがあると思いますか



②あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（中学校は学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



③いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



○「先生はよいところを認めてくれている」の肯定的な回答も、小学校は90.7%、中学校は83%に至っており、教員が児童・生徒の取組について、様々な場面で称賛や価値付けを行っている効果が出ている。

○現在「多様性を生かした教育活動」として、様々な考えを受け止め、納得解や最適解を見出す取り組みを重視しており、学校の取組が学級会や学級活動に対する意識の向上に年々つながっている。

○いじめは相手の権利を侵害する行為であり、いかなる理由があっても許されるものではなく、犯罪行為につながる可能性もあるということを毅然と指導する必要がある。